opusdei.org

## 年間第22主日(A 年)福音書の黙想

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の合計で、自分のに従い、わたしに従いなさい。自分の命を救いたが、と思う者は、それを失う者は、それを得る」(マタイ16・24-25)。

2023/09/01

年間第22主日(A年)の福音朗読ではマタイによる福音書16章21-27節

が読まれます。朗読箇所に関連する 聖ホセマリアの言葉を紹介します (説教より抜粋)。

キリストの教えは実に明白です。い つものように福音書を繙いてみま しょう。マタイ福音書第十一章を開 くと、「わたしは柔和で謙遜な者だ から、わたしの軛を負い、わたしに 学びなさいⅠ₪という言葉が目に入 ります。お分かりでしょうか。私た ちは唯一の模範であるイエスに教わ らなければなりません。躓きや戸惑 いを恐れずに前進したいのなら、主 の歩まれた道を歩むほかはない。主 のみ跡を一歩一歩踏みしめ、謙遜で 忍耐強い聖心のうちに入り込み、主 の命令と愛の泉から力を汲みとる。 一言でいえば、イエスに同化するの です。兄弟である人々の中にあっ て、本当にくもう一人のキリスト>

であると言えるようになるために努力しなければなりません。

ごまかしでないことを確かめるために、マタイ福音書の他の箇所を読んでみましょう。第十六章を見ると、主は一層明確に教えておられま自って来たい者は、自分の十字架を背負ってもたしに従いなさい」[2]。神への道は、放棄の道、犠牲と依託の道でもありません。

ベツレへムのまぐさ桶からカルワスト オの玉座に至るまで、道々キリス度を がお示しになった模範にももや暑き、 がおったで、飢えや渇き、 ををで、飢えや混解が、自己救いを をををして がある主、それが、自己救いまれて はなる主、 がある主、 がある主に がいたは神に がある子供ですから、神に がったなり なさい。キリストがわたしたちを愛して、ご自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださった歩うに、あなたがたも愛によって歩みなさい」「国。このように呼びかけた聖パウロの言葉を、心と精神に刻み、でいただきたい。何度も黙想し、実行に移す努力をして欲しいのです。

あなたは道に迷っている。苦しく、狭く、険しい道を通過した者にのみ 天の国に入ることが許され、永遠に 主と共に憩い、そして君臨すること ができるのだ」[4]。

進んで十字架を担う決心が必要で す。万一それができないのなら、口 ではキリストに倣うと言いながら、 行いではそれを否定することにな り、師と親密に交わることも真実に 主を愛することもできなくなりま す。この点についてなるべく早く、 しかも深く理解しなければなりませ ん。わがままや虚栄心を満足させ、 安楽や歓心を誘う物を、自発的に捨 てなければ、主の傍を歩むことはで きない。犠牲という優雅な塩で味付 けをしない日々があってはならない のです。万一、そんな生活は不幸だ と思うようなことがあっても、その ような思いはすぐに捨ててくださ い。自分の十字架を雄々しく担わ ず、自らに打ち勝つ努力もしない

で、激情や軽薄さに引きずられてその支配に任せるなら、たとえ幸せだと思ったとしても、実に哀れとしか言いようがありません。

きっと他の黙想でお聞きになったこ とがあるでしょう。スペインの黄金 時代に活躍した作家が見たという夢 を思い出します。その作家の前には 二本の道が開かれている。一方の道 は広々とした街道で、気の利いた店 や宿がたくさん並び、長閑で愉快な 道中を約束している。人々は馬や車 に揺られながら音楽を楽しみ、声高 に笑いつつ歩みを進める。しかし、 人々の享楽はうわべだけで儚いもの です。その先には底なしの淵が待ち かまえているからです。これこそ世 俗的で、常に自分の満足だけを追い 求める人々の歩む道です。中味のな い喜びを空々しく見せびらかしてい るのみ。彼らは、あらゆる安楽と快 楽を飽くことなく追い求める。悲し み、犠牲、放棄を極度に恐れ、キリ

ストの十字架の意義を知ろうともせ ず、十字架など馬鹿げたことだと考 える。実は、狂っているのは彼らな のです。妬みや暴飲暴食、快楽の奴 隷であり、遂にはどうにもならなく なる。やがて、この世と永遠の幸福 を無意味なガラクタのために失って しまったことに気づくでしょう。主 の警句を聴かせたいものです。「自 分の命を救いたいと思う者は、それ を失うが、わたしのために命を失う 者は、それを得る。人は、たとえ全 世界を手に入れても、自分の命を 失ったら、何の得があろうか | ほる

夢の中にもう一本の道が見えます。 これはとても狭く、とうてい馬の背 に乗って通ることのできない急勾配 の道。徒歩以外にすべはない。小司 を踏みしめ、岩を避けながら、心静 かに。所によっては服だけでなく肌 も傷を受ける。しかし、その先に は、花園、永遠の幸せ、天国が待っ ている。これは自ら遜る聖なる 人々、イエス・キリストを愛するが ゆえに喜んで隣人の犠牲になるこくで のできる人々の道、どんなに重で も、登り坂を厭わない人々がれても す。万一、重さに打ちひしがれても す。があることを知る人、自分のある け得ることを知る人、自分のの 道なのです。

たとえ躓いても、辛い失敗の後に再 び立ち上がり、志気を新たにきる とができません。とができません。 とないませんなくて、 とないしないではなれてある は、失敗しなによがるしい。 はなるず立なに上がるしい。 に養人でおれない。 に養人でおれない。 はないでおれない。 はないでおれない。 はないでおれない。 はないでおれない。 はないでおれない。 はないでおれない。 はないでおれない。 はないがいが、 きにがいが、 きにがいたりません。 がいたりません。 がいたりません。 がいたりません。 がいたりません。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれ

でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」m。こう約束してくださった御者に強さを求めるなら、弛まず前進することができるからです。ありがたいことに、「あなたはわたしの神、わたしの砦」®です。あなたのみが、常に私の砦、私の選難所、私の支えでありますから。

本気で内的生活に進歩したいのな ら、謙遜になりなさい。そして、絶 えず、信頼しきって、主キリストの 助けと、主の母であり私たちの母で もある聖マリアの助けを求めるので す。この前の過失が与えた傷がどん なに痛もうとも、穏やかな心と新た な心でその十字架を抱きしめ、主に 申し上げましょう。「主よ、あなた の助けさえあれば、戦いを続けるこ とができるでしょう。急な坂や、 日々の仕事の外見上の単調さ、道中 の茨や小石を恐れずに、あなたの招 きに忠実に応えたいと思います。あ なたは慈しみ深い心で私を助けてく

ださいますから、やがて、永久に続く喜びと愛、永遠の幸せを見出すことができるでしょう」。

(ホセマリア・エスクリバー『神の 朋友』128-131)

- [1] マタイ11・29
- [2] マタイ16・24
- [3] エフェソ5・1-2
- [4] マカリオス『説教』12,5 (PG 34, 559)
- [5] マタイ16・25-26
- [6] 箴言24·16参照
- [7] マタイ11・28
- [8] 詩編42・2

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seijosemaria-sekkyo-matai-16-21-27/ (2025/12/17)